

令和 7 年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

生活科が好きな児童を育てるための学習のあり方

～活動を通して、児童が気付く喜びを感じる指導の工夫～



第 3 部会 印西市立高花小学校

横川 薫

大豆生田 香波

1 研究主題

生活科が好きな児童を育てるための学習のあり方

～活動を通して、児童が気付く喜びを感じる指導の工夫～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、次のとおりである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

【知識及び技能の基礎】

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分の関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生活科では、児童が活動を通して学習し経験を積み重ねていくことが学びの中心となる。子どもたちが学習の内容を理解することや経験を積み重ねること、「やってみたい。」と興味関心をもって取り組めることが大切である。そのために、教師側が環境設定の工夫を行うことで児童の気付きに繋がっていくと考える。

(2) 学校教育目標から

本校では、学校教育目標を「自分と社会をみつめ、まなびを大切にすることの育成～つながる喜びを感じ、まなびを見つける子ども～」としている。そして目指す児童像を以下のように設定している。

- ・やさしく思いやりのある子
- ・まなびを見つけ、よく考える子
- ・心身ともに、しなやかな子

学習においては、「学習の仕方を身に付け主体的に取り組む子、学んだことを生かし粘り強く考え実行できる子、自他の考えや価値観を大切に、高め合える子」を目指している。生活科の学習においても他者との学び合いや自分で考えたことを実生活で生かしてこうとする思いがもてるよう目指していきたい。

(3) 児童の実態から

本校は、千葉県北西部に位置し、自然豊かな環境と都市機能が調和し商業施設も充実している。今年度は、創立35周年を迎えており新しい住宅と昔からある住宅が混在している地域である。近年は、住みやすさから子育て世代も増加しており、児童数が増加している。特に、本校は高花小学区の児童だけではなく、船穂小学区・原小学区・西の原小学区・内野小学区と幅広い地区の児童が在籍している。そのため、一貫した地域による児童の実態の特徴を捉えるのは難しいという面もある。

生活科では、活動を通した学習が多いため生活科が「好き」と答える児童は多い。一方で、活動内容が幅広い観察カードで文章を書くのが苦手な児童や友達と交流して活動するのが苦手な児童など分野によっては個々に苦手な学習があり、教師の支援が必要な場面もある。そこで、生活科においては児童にとって「楽しく、興味をもてる活動を設定する」こと、教師側が「多様な経験や豊富な材料や人材を整える」ことにより、生活科が好きな児童が増え、活動を通して気付く喜びを感じることができると考える。以上のことから、本主題を設定した。

3 研究仮説と手立て

研究仮説1

楽しく、興味をもてる活動を設定すれば、児童は学習を好きになるであろう。

児童にとって身近な話題や関わりのある題材を設定することで興味をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。そのための教師側の手立てとして、「学習の流れやゴールを明確にする」「友達との相互学習」を行うことで児童が楽しく活動することができるように考える。

研究仮説 2

多様な経験や豊富な材料や人材を整えることで児童の気付きに繋がるだろう。

生活科において多様な経験の積み重ねは、児童にとっての自信や深い学びに繋がると考える。これまでの生活経験を生かすことや実際に体験したことを題材にすることで学習への気付きが深まるであろう。そのための教師側の手立てとして、「豊富な材料や人材の活用」「伝え合いの場の設定」「環境設定の工夫」を行うことで多様な視点をもった気付きが促されると考える。

4 授業実践（1年）

※本実践は、令和6年度1年生の実践をもとに、授業改善や仮説の検証を行った。

（1）単元名 あき だいすき ～たのしいね あきのあそび～

（2）単元について

①単元観

本単元は、「むしとなかよくなろう」「たねやみになったね」「あきをみつけよう」「たのしいね あきのあそび」「ようこそ あきのテーマパークへ」の5つの小単元から構成されている。本小単元「たのしいね あきのあそび」は学習指導要領の次の内容に該当する。

- （5）身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- （6）身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

本小単元は、公園で見つけた葉や木の実を使って遊ぶ活動を通して、遊びに使う物を工夫して作り、その面白さに気付くとともに、自分達の生活に取り入れたり、遊びを創り出したりすることをねらいとしている。

これまでの学習で、子ども達は秋の虫を飼育したり、アサガオの種とりやサツマイモを収穫したりする活動を通じて季節が夏から秋へと変化していることに気付くことができた。また、公園探検に行き、木の実や落ち葉など見つけた秋を伝え合う活動を通して、身近なところから日常生活の秋の様子に気付くことができた。そして、見つけてきた秋や木の実を使って遊ぶことを楽しみにしている。そこで、発見した葉や木の実などで遊びに使うものを作ったり、遊びを工夫したりする活動を通して、自然を利用した遊びの面白さに気付かせたい。作ったおもちゃを他者に紹介し、遊んでもらいたいという思いをもつことで「ようこそあきのテーマパーク」の学習へ繋げていきたい。

②児童の実態（36名）

質問	回答
1 生活科の学習は好きですか。	好き 31人 少し好き 5人 少し嫌い 0人 嫌い 0人
2 それはなぜですか。	1 知らなかったことが知れるから。 6人 2 友達と一緒に活動することが好きだから。 7人 3 植物（アサガオ）を育てるのが好きだから。 3人 4 虫を発見するのが好きだから。 12人 5 季節の遊びをする（シャボン玉、水遊び）のが好きだから。 5人 6 季節の変化を知る（春・夏・秋）のが好きだから。 1人

	7 学校や友達のことを知る（自己紹介・学校探検）のが好きだから。	2人
	8 その他	0人
3 生活科の学習で何かを調べたいとき、何を使いたいですか。	教科書 本 タブレット 人に聞く	3人 6人 25人 2人
4 自然や季節のものを使って物を作ったことはありますか。	はい いいえ	20人 16人
5 どんなものを作りましたか。 （質問4で「はい」と回答した人）	どんぐりのネックレス どんぐりごま リース 葉っぱの手裏剣 花の指輪 花輪 押し花 色水 木のハンマー 標本	

実態調査から、全員の児童が生活科が好きであることがわかった。その理由として「虫を発見するのが好き」ということが多い。虫さがしの授業は、9月に入ってから行った学習のため、覚えている児童が多かったのではないかと考える。次に多かったのが、「友達と一緒に活動するのが好き」である。生活科では、グループや友達、他学年と共に学ぶ機会が多いため、そうした活動が好きな児童が多いことがわかった。一方で、「季節の変化を知るのが好き」という児童は少ない。子ども達の中で、いろいろな学習が季節の変化とまだまだ結びついていないということがわかった。「生活科の学習では、何を使って調べたいか」という質問では、「タブレット」が最も多い。タブレットは、虫さがしの学習で虫の特徴を調べるために使用してきた。タブレットで調べることは、子ども達にとって本より馴染み深いものだということがわかった。自然や季節のものを使って物を作ったことのある児童は、学級の半分くらいの人数だった。特に、入学前に幼稚園や保育園で作った経験のある児童が多かった。これまでの経験を生かしつつ、既製品ではなく自然の物を使った製作も楽しいと感じられる機会になるだろう。また、本学級では、初めて行うことに慎重で不安を感じる児童が多い。生活科で物を作るのは初めてのため、一人ひとりが作りたい物を明確にし、どんな手順で作っていくのかわかるような工夫が必要だと考える。

③指導観

本小単元は、公園で見つけてきた秋や木の実を使って遊べる物を作ったり、遊びを工夫したりする単元である。

第1時では、小単元全体の見通しをもたせる。見つけてきた材料を使ってどんなおもちゃを作りたいか話し合わせ、個々で計画を立てさせる。まず、学習の見通しがもてるようメニュー表の作成を行う。全体的な学習の流れやその時間ごとに何をしたらよいのか具体的にわかるようにする。また、メニュー表の中には、毎時間の学習の振り返りができるような自己評価の欄も用意する。次に、作りたいおもちゃの幅が広がるよう見本の作成を行う。そうすることで、子どもたちが安心して物作りに取り組めるようにするとともに、自分達では思いつかなかったことに挑戦しようという気持ちを芽生えさせたい。児童はこれまで、週に一度 ICT 支援員と共に授業を行い、写真撮影の方法や子ども向けウェブサイトの「Yahoo!きっず」を使った検索などタブレット操作の技能を身につけてきた。一方で、一年生にとって多様な本や検索結果の中から作りたい物をすぐに見つけることは難しい。そのため、今回は、本やタブレットで葉や木の実を使ったおもちゃをスムーズに調べられるよう、事前に本の選書をしたり、教育支援アプリのロイロノートで Web カードの作成をしたりしておく。

第2・3時では、はじめに自分が作りたいおもちゃを全体で発表することで、作りたいおもちゃを明確にし、自分と同じおもちゃを作る友達がいることを知る。実態調査では、友達と一緒に活動することが好きな児童が多かったことから、「一緒に作ろう。」といった声かけがしやすくなるかと考える。次に、前時で計画したものを基に葉や木の実でおもちゃを作る。活動の途中で、どんなおもちゃを作ったか中間発表の時間を設け、よりよいおもちゃにするにはどうしたらよいか考えさせていく。そのため、中間発表では、工夫のポイントを明確にした掲示物を示し確認する。工夫のポイントは5つあり（①色を変えた②ルールを考えた③動かし方や作り方を考えた④他の材料を使って作った⑤本には載ってないものを作った）、毎時間確認しながら、活動に取り組ませていきたい。環境設定は、子どもの目の着く所に材料コーナーを置いておくことで、多様な材料に触れながら製作に取り組めるようにする。また、個人で作ったり、複数人で作ったりと多様な人数で取り組むことを選択できるよう高さや広さの異なる机の用意、調べ学習ができるよう本やタブレットの準備を行う。さらに、作ったおもちゃを試すことができるような場を設けることで、それぞれにとって探求的な学びができるようにする。そうすることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方が充実できるような場の工夫になると考

える。

第4時では、友達で作ったおもちゃで遊ぶ時間を設定する。互いに遊び方のコツを教え合い、より楽しく遊ぶためのルールや約束について発表したり、考えさせたりする時間をつくる。活動を通して、作ったおもちゃを他者に紹介し、学級の児童以外にも遊んでもらいたいという思いをもたせることで「ようこそ あきのテーマパークへ」の小单元へ繋がっていくことが意識できるようにする。

第5時では、「うまいったよ」カードの作成とおもちゃの説明動画を撮る。おもちゃを作る時に、何がうまくいったのか説明しながら振り返ることで、秋の自然を使って楽しくおもちゃづくりができたことに気付く機会としたい。

④研究仮説との関わり

研究仮説1

楽しく、興味をもてる活動を設定すれば、児童は学習を好きになるであろう。

10月中旬に2年生と一緒に花の丘公園に秋さがしに行った。自分たちが公園で拾った秋の木の实を材料とすることで興味をもたせていく。また、おもちゃを作る際、友達とアイデアを出し合いながら活動することで楽しい学習になるのではないかと考える。その時、一人で取り組むか、複数で取り組むか人数を自由に選択させることで、活動の幅が広がるようにしたい。また、自分が作ったおもちゃを相手に試してもらい、他の人の作品を参考にするなどのやりとりをする場面を作ることで、友達と活動する喜びに繋がると考える。単元の最後には、友達で作ったおもちゃで遊ぶ活動を取り入れていく。導入時に、本单元は保育園児を招いて交流を行う「ようこそ あきのテーマパークへ」の活動に繋がっていることを伝えることで、よりおもちゃ作りへの関心をもって活動ができると考える。

研究仮説2

多様な経験や豊富な材料や人材を整えることで児童の気付きに繋がるだろう。

生活科では、これまで自然の様子や四季の変化などに気付けるような活動を行ってきた。また、学校施設内での虫取り体験や秋見つけだけでなく、高花公園や花の丘公園に場を広げて活動してきた。アサガオの栽培や水遊び、シャボン玉遊び、万葉公園での芋掘り体験は、多様な環境や友達と関わることで知識だけでなく心の動きが伴う活動となった。このように、様々な季節や場所を使用する経験は、児童の気付きの質を高めていくことになると思う。

(3) 単元の目標

公園で見つけた葉や木の实を使って遊ぶ活動を通して、遊びに使うものを工夫して作り、遊びの面白さに気付くとともに、自分達の生活に取り入れたり、遊びを創り出したりすることができる。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・安全な道具の使い方やポイントが分かっている。【行動】 ・約束やルールを変えたり、工夫したりすると遊びが楽しくなることに気付いている。【作品・記録】 ・秋の自然を使って楽しむことができた自分に気付いている。【発言・記録】	・作ったおもちゃで遊び、もっと面白くしようと考え、作り直している。【行動・つぶやき】 ・秋の自然物を生かして、どんな遊びができるか、考えたり試したりしている。【行動・つぶやき】	・公園で見つけた秋を使って面白いおもちゃを作ろうとしている。【行動・発言】 ・友達とかかわりながら遊びを創り出し、楽しく過ごそうとしている。【行動・発言】

(5) 指導と評価の計画 5時間扱い 本時(2/5)

時	学習内容と学習活動	◎評価規準(観点)【方法】
1	◆どんなおもちゃを作りたいか話し合う。 ○学習の見通しをもつ。	・公園で見つけた秋を使って面白いおもちゃを作ろうとしている。

	○本やタブレットで木の実や葉を使ったおもちゃを調べる。 ○どんなおもちゃを作りたいか計画を立てる。 ○必要な材料を知る。	(主体的に学習に取り組む態度) 【行動・発言】
2 本 時 ・ 3	◆葉や木の実でおもちゃを作る。 ○自分が作りたいおもちゃを発表する。 ○おもちゃ作りをする。 ・どんぐりごま ・やじろべえ ・どんぐり迷路 ・まつぼっくりけん玉 ・どんぐりマラカス ・おちばトランプ ・どんぐりずもう など	・安全な道具の使い方やポイントが分かっている。 (知識・技能) 【行動】 ・秋の自然物を生かして、どんな遊びができるか、考えたり試したりしている。 (思考・判断・表現) 【行動・つぶやき】 ・作ったおもちゃで遊び、もっと面白くしようと考え、作り直している。 (思考・判断・表現) 【行動・つぶやき】
4	◆友達の作ったおもちゃで遊ぶ。 ○友達がどんなおもちゃを作ったのか知る。 ○遊び方のコツを教え合う。 ○楽しく遊ぶために、回数や時間など約束やルールを作る。	・友達とかかわりながら遊びを創り出し、楽しく過ごそうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動・発言】 ・約束やルールを変えたり、工夫したりすると遊びが楽しくなることに気付いている。 (知識・技能) 【作品・記録】
5	◆カードを書く。 ○「うまかったよ」カードにどうしたらうまいくのか記入する。 ○作ったおもちゃを説明する動画をタブレットで撮影する。	・秋の自然を使って楽しむことができた自分に気付いている。 (知識・技能) 【発言・記録】

(6) 本時の指導 (2 / 5)

①目標

公園で見つけた葉や木の実を使って、遊びに使うものを工夫して作ることができる。

②展開

過程 (時配)	学習内容と学習活動	指導・支援 ◎評価規準(観点)【方法】	資料
見いだす (15)	○本時のめあてをつかむ。	○本時のめあてを理解する。	テレビ
	はっぱやきのみでおもちゃをつくろう。 ○メニュー表を見て学習の流れを把握する。	○製作の際の安全面や約束について伝える。 ・きり、ホットボンドは安全コーナで行う。 ・安全コーナでは、必ず先生と一緒に作業する。 ・おもちゃを試す時は、周りに人がいないか確かめる。	タブレット 掲示物 ワークシート

たのしいね あきのあそび ☆メニューひょう☆

173p2くみ (なまえ)

ないよう		ひょうじ	せんせい
①	どんなおもちゃがつかれるかな？ ～けいかくをたてよう～ p90～ (ほん/タブレット)	つくりたいおもちゃはさ まったかな？	
②	はっぱやきのみでおもちゃをつくらう。 ～つくってみよう！～ p92～93 (ざいりょう/ほん/タブレット)	はっぱやきのみでおも ちゃをつくれかな？	
③	はっぱやきのみでおもちゃをつくらう。 ～くふうしてみよう！～ p92～93 (ざいりょう/ほん/タブレット)	おもちゃをくふうしてつ くれかな？	
④	みんなであそぼう。 p94 (つくったおもちゃ)	たのしくあそべたか な？	
⑤	うまくいったよカードをかこう。 ～みんなにつたえよう～ p95 (ぶりと/たぶれつと)	カードをかいたの、どう がとったりできたか な？	

○前時に何を作りたいと考えたか発表
する。

○どの材料を使って何を作るのか明
確にし、同じおもちゃを作る友達が
誰か確認できるようにする。

【仮説1】



- ・どんぐりを使ってこまを作りたい。
- ・どんぐりを並べた迷路を作りたい。
- ・ペットボトルの蓋を並べて、どんぐりの的当てを作りたい。
- ・落ち葉をペットボトルに付けてボーリングにしたい。

自分達が公園で拾った秋の葉や木
の実を材料とすることで興味をも
てる学習となった。

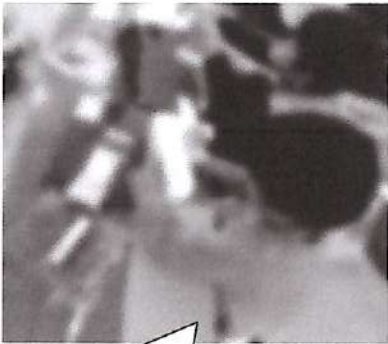
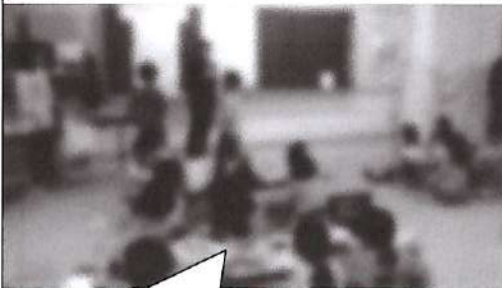
自分で
取り組む
(15)

- おもちゃづくりをする。
- ・どんぐりごま
 - ・やじろべえ
 - ・どんぐり迷路
 - ・まつぼっくりけん玉
 - ・どんぐりマラカス
 - ・おちばトランプ

- 安全コーナーには、学習支援員が付
き、道具の使い方を教えるとともに、
活動を見守る。
◎安全な道具の使い方やポイントが
分かっている。
(主体的に学習に取り組む態度)

【行動】

本 (図鑑)
タブレット
材料
道具

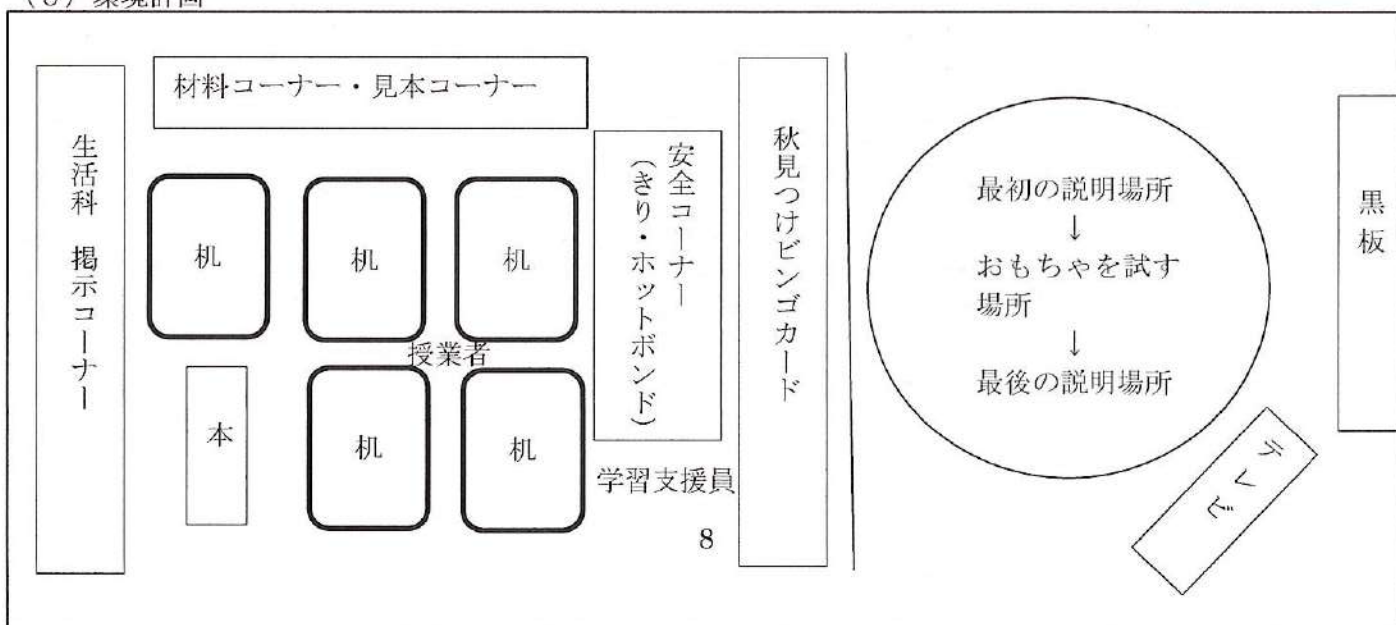
	・どんぐりずもう ・おちばわなげ など  C1 この空きスペースどうしよう？ C2 ガムテープでとめたら？ C1 利用したいんだよね。 C1 ドングリをしまう所にしよう。 	○材料コーナーにある物は、自由に使ってよいことを知らせる。 ○うまくいかない時は、どうしたらいいか考えられるようヒントを出す。 ○早く終わった児童は、自分の作ったおもちゃの動画をタブレットで撮り、ロイロノートで提出するよう声をかける。 【仮説2】  C1 ボンドこうやったらくっついたよ。 C2 わーくっついたね。 C1 なぜ落ちないんだろう。 C2 かたまってくっついたのか？ 材料コーナーを設定し、自由に使える材料の種類を豊富に揃えることで材料に対する気付きの声や工夫しようとする様子が見られた。	
広げ深める (10)	○児童のおもちゃを何点か紹介する。 ○製作中のおもちゃがうまくいくか試す。	○さらに工夫するための5つのポイントを確認する。 ・色を変えた。 ・ルールを考えた。 ・動かし方や作り方を考えた。 ・他の材料を使って作った。 ・本には載ってないものを作った。 ○秋の自然物を生かして、どんな遊びができるか、考えたり試したりしている。 (思考・判断・表現) 【行動・つぶやき】	掲示物
まとめ あげる (5)	○活動を通して気付いたことを発表していく。	○さらにおもしろいおもちゃにするにはどうしたらいいか尋ね、次の学習につなげる。	ワークシート

	・おもちゃを楽しく作れた。 ・〇〇さんのおもちゃが面白かった。 ・ボンドは固まるまで時間がかかった。 ・うまく穴が空かないどんぐりがあった。 ・次回は、おもちゃの大きさを考えたい。 ○学習の振り返りをする。 ・メニュー表を確認し、自己評価を行う。 ○次時に何をするか予告する。 ・メニュー表を確認する。	 ○メニュー表から、次の学び方は何か見つけ出せるよう助言する。	
--	---	--	--

(7) 板書計画

はっぱやきのみでおもちゃをつくろう。			
がくしゅうのながれ めあての確認→計画発表→ 作ってみる→中間発表→振り返り	くふう ①色を変えた。 ②ルールを考えた。 ③動かし方や作り方を考えた。 ④他の材料を使って作った。 ⑤本には載ってないものを作った。	ふりかえり (きづいたこと) ・おもちゃを上手に作れた。 ・〇〇さんのおもちゃが面白かった。 ・次回は、〇〇を作りたい。 ・ルールを作った。 ・約束を守って安全に作れた。 ・友達と一緒に楽しく作れた。 ・工夫(〇番)して作れた。	
やくそく ・きり、ホットボンドは安全コーナで行う。 ・安全コーナーでは、必ず先生と一緒に作業する。 ・おもちゃを試す時は、周りに人がいないか確かめる。			

(8) 環境計画



(9) 生活科のアンケートによる児童の変容

質問	回答（令和6年9月）	回答（令和7年2月）
1 生活科の学習は好きですか。	好き 31人 少し好き 5人 少し嫌い 0人 嫌い 0人	好き 26人 少し好き 9人 少し嫌い 1人 嫌い 0人
2 それはなぜですか。	1 知らなかったことが知れるから。 6人 2 友達と一緒に活動することが好きだから。 7人 3 植物（アサガオ）を育てるのが好きだから。 3人 4 虫を発見するのが好きだから。 12人 5 季節の遊びをする（シャボン玉、水遊び）のが好きだから。 5人 6 季節の変化を知る（春・夏・秋）のが好きだから。 1人 7 学校や友達のことを知る（自己紹介・学校探検）のが好きだから。 2人 8 その他 0人	1 知らなかったことが知れるから。 6人 2 友達と一緒に活動することが好きだから。 3人 3 植物（アサガオ）を育てるのが好きだから。 7人 4 虫を発見するのが好きだから。 6人 5 季節の遊びをする（シャボン玉、水遊び）のが好きだから。 7人 6 季節の変化を知る（春・夏・秋・冬）のが好きだから。 5人 7 学校や友達のことを知る（自己紹介・学校探検）のが好きだから。 1人 8 その他 0人
3 生活科の学習で何かを調べたいとき、何を使いたいですか。	教科書 3人 本 6人 タブレット 25人 人に聞く 2人	教科書 4人 本 9人 タブレット 20人 人に聞く 2人
4 自然や季節の物を使って物を作ったことはありますか。	はい 20人 いいえ 16人	はい 32人 いいえ 4人
5 どんなものを作りましたか。 ※質問4で「はい」と回答した人。	どんぐりネックレス・どんぐりごま・リース 葉っぱの手裏剣・花の指輪・花輪・押し花 色水・木のハンマー・標本	どんぐり迷路・どんぐりごま・どんぐりカー レース・まつぼっくり（どんぐり）けん玉・ リース・どんぐり人形劇場・どんぐりまとあ て・どんぐりハウス・はっぱボーリング・木 で秘密基地・トントン相撲・どんぐりころが し・花の指輪・ドングリゴルフ・スライダー どんぐりつり・葉っぱ写し絵

成果（○）と課題（▲）

- 季節の変化を知る（春・夏・秋）のが「好き」という児童が増えた。今回「あき だいすき」の単元を行うことで季節の変化への興味と結びつくことができたと考え。
- 生活科の学習で何かを調べたいとき、「本」と答える児童が増えた。これは、「あき だいすき」の学習を行う際、図書室の本から作りたいものを探す児童が多かったことが考えられる。
- 自然や季節の物を使って物を作ったことが「ある」と答えた児童は多かった。これは、全員がドングリや松ぼっくりなど自然の材料を使って製作を行ったからである。また、作った物の具体的な内容の記述も増えており、児童にとって多様な経験の積み重ねとなったと考え。
- ▲生活科の学習を「好き」な児童の人数が、2回目の調査では人数が減ってしまった。年間を通じて生活科において多様な学習を行うことで「書く」など苦手な分野の学習が増えてきたのだと考える。教科横断的な学びなど学習に対するアプローチの仕方を考える必要があった。

(10) 成果と課題

研究仮説 1

楽しく、興味をもてる活動を設定すれば、児童は学習を好きになるであろう。

成果 (○) と課題 (▲)

- 自分たちが公園探検で見つけた材料を使うことで、興味のもてる活動となった。
- 始めに自分が作るおもちゃを発表することで、一人一人が製作に意欲的に活動できた。
- ロイロノートに計画書を作ることで、自然の材料を使うことを意識することができた。
- 同じおもちゃを作る仲間同士と活動し、友達のおもちゃ作りを見合うことができていた。
- 協働的な学びを感じさせるつぶやきが児童同士で見られた。
- ▲児童同士が製作をしている際、教師は児童の近くでつぶやきの声を拾い上げる時間が必要だった。
- ▲最初の発表に時間がかかったことにより製作時間や振り返り時間が短くなってしまった。グループで計画発表を行うなど時間配分の工夫が必要であった。

研究仮説 2

多様な経験や豊富な材料や人材を整えることで児童の気付きに繋がるだろう。

成果 (○) と課題 (▲)

- 材料コーナーでは、豊富な材料を用意することができた。
- 黒板に製作をする際の工夫のポイントが掲示されていてよかった。
- 教師が作った見本の展示があってよかった。
- 安全コーナーが整っていた。
- 「ボンドがくっつきづらい」など気付きがあり、のりとの違いなど使用する材料の経験が増えた。
- 教室を二部屋使い、説明する場面と製作コーナーに分けたところがよかった。
- ▲生活科だけではなく、教科横断的な学びを意識した取り組みができるとより経験が深まった。
- ▲長机が混んでいた所があったため、最大で何人まで座れるか把握する必要があった。
- ▲段ボールは切りづらいため、段ボールカッターの活用をすれば材料への新たな経験となった。
- ▲今回は、材料のほとんどを教師側で用意したが、どこまでが家庭でどこまでが学校で用意すべきか明確にできると今後の学習に繋がると考える。

5 授業実践（2年）

※本実践は、令和6年度2年生の実践をもとに、授業改善や仮説の検証を行った。

（1）単元名 自分はっけん ～自分のことをもっと知りたいな～

（2）単元について

①単元観

本単元は、「はっけん自分のよいところ」「自分のことをもっと知りたいな」「おいでよ、自分はっけんはっぴょう会」「ありがとうをとどけよう」「みらいにむかってはばたこう！」の5つの小単元から構成されている。本小単元「自分のこともっと知りたいな」は、学習指導要領の以下の内容に該当する。

（9）自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

「自分はっけん」という単元は、5つの小単元から構成されている。一つ目の「はっけん自分のよいところ」という小単元では、入学したころと比べて、大きくなったことやできるようになったことを成長の記録や写真、友達との話し合いの中から見つける。二つ目の「自分のことをもっと知りたいな」では、小さい頃の自分を振り返るために、これまで関わってきた人にインタビューを行い、自分はっけんブックを作成する。三つ目の「おいでよ、自分はっけんはっぴょう会」では、作成した自分はっけんブックやできるようになったことをお世話になった人へ発表する。四つ目の「ありがとうをとどけよう」では、友達やこれまでお世話になった人に手紙を書いて感謝の気持ちを伝える。五つ目の「みらいにむかってはばたこう！」では、これまでの学習を基に自分のよさや可能性を生かし、なりたい自分について作文を書いて発表を行う。

本小単元では、自分自身の生活や変化を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分一人できるようになったことや役割が増えたことだけでなく、これまでの生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにすることを目指す単元である。

②児童の実態（31名）

質問	回答
1 生活科の学習は好きですか。	好き 25人 少し好き 4人 少し嫌い 0人 嫌い 2人
2 それはなぜですか。	もの作りが楽しいから 15人 植物を育てたり、観察したりするのが好きだから 5人 グループ学習が楽しいから 4人 インタビューすることができるから 4人 町探検が好きだから 1人 学習したことを書くことが嫌いだから 2人
3 生活科の学習で何かを調べたいとき、何を使いたいですか。	教科書 4人 本 5人 タブレット 19人 人に聞く 3人
4 自分が生まれたときの話を家の人から聞いたことがありますか。	はい 23人 いいえ 8人
5 自分が小さいころの話を聞いたことがありますか。	はい 25人 いいえ 6人
6 赤ちゃんのころの写真を見たことがありますか。	はい 27人 いいえ 4人
7 自分の名前の意味を知っていますか。	はい 20人 いいえ 11人
8 小さいころの記憶がいつからありますか。	1 生まれたとき 4人 2 保育園や幼稚園に入る前（1～3才まで） 10人 3 保育園や幼稚園に入ってから（4～6才） 17人

実態調査から、ほとんどの児童が生活科の学習を好きであるということがわかった。理由としては、もの作りが楽しいからが最も多かった。調査の直前まで「おもちゃ作り」を行っており、児童が作りたいおもちゃを選んで、主体的に学習に取り組んできたことが肯定的な回答の増加につながったのだと考えられる。一方、嫌いな児童は2名おり、学習したことを書くことが嫌だからという理由だった。「自分はっけんブック」の作成の際にも、書く活動が増えることから、前向きな気持ちで取り組むことが難しいと思われるため、意欲的に活動するための手立てが必要となる。「生活科の学習で調べたいとき、何を使いたいか」という質問では、「タブレット」が最も多かった。おもちゃの作り方を調べるだけでなく、観察シートの記入にも、タブレットを使用して学習をすることが多かったからだと思う。「人に聞く」という回答が少なかったのは、これまでインタビューをして情報を集めるという経験が少なかったことが要因ではないだろうか考える。「自分が生まれたときの話や小さいころの話を聞いたことがあるか」や「自分の名前の意味を知っているか」という調査では、20人以上の児童が話したことがあり、名前の意味を知っていると答えた。これまでの生活や成長を支えてくれた人に感謝の思いをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにするためには、インタビューする相手の選定や質問内容が重要になってくる。

③指導観

本小単元は、小さい頃の自分を振り返るために、これまで関わってきた人にインタビューを行い、「自分はっけんブック」を作成する学習である。

第1時では、教師の小さいころの写真を使用して、「私は誰でしょう？」クイズを行う。教師の子どものころの写真を見ることで、自分の小さいころに興味をもたせる。また、子ども達同士が恥ずかしがらずに写真を見せ合えることにつながると考える。「私は誰でしょう？」クイズを行いながら、写真にまつわるエピソードを話していくことで、児童が写真を見る視点（はてな）を与えていく。見る視点については、黒板のくま手チャートに整理し、児童がいつでも確認することができるようにしておく。自分の写真を見たときに、児童はインタビューで聞きたい内容のイメージがしやすくなっていくと考える。さらに、教師が作った「自分はっけんブック」を見せることで単元のゴールをイメージさせ、学習の見通しをもたせていきたい。児童は、事前に用意した小さいころの写真をグループの友達と見合って、写っているものからその時の様子を想像したり疑問点を見つけたりする。その際に、思考ツールのくま手チャートを使用し、教育支援サイトのロイロノートを使用して写真から見つけたことを整理する。入力に、時間がかかってしまう児童には、紙の付箋を用意し、手書きで「はてな」についてメモを取り、次の時間までに入力させる。今回の学習では、知りたいことがあるときにはインターネットで調べるだけでなく、インタビューするという選択肢があり、インタビューならその時の状況やその人の気持ちを知ることができるということに気付かせたい。

第2～3時では、前時での話し合いを基に、インタビュー内容の精選やインタビューする相手を考えていく。インタビュー内容は、どのような回答が返ってくるか予想することで、より工夫した内容を作成することができるだろう。写真に写っている様子だけでなく、その時に関わった人達の気持ちを聞く質問を入れていくよう指導する。そうすることで、これまで関わってきた人へ感謝の気持ちをもち、四つ目の小単元である「ありがとうをとどけよう」の学習につなげていく。父母だけでなく、様々な人とこれまで関わってきたことに気付かせ、誰にインタビューすればよいか考えさせることで、目的に合った情報を集めることにつながるだろう。まずは、最も関わってきた父母にインタビューをし、その後他の人にもインタビューをしていくことを伝える。授業の最後に相手意識をもってインタビューの練習を行い、一人一人がしっかりとインタビューできるようになることを目指していく。

第4～8時では、インタビューしたことを基に、「自分はっけんブック」の作成を行う。様々なエピソードがある中で、特に成長したと感じた場面や周囲の支えによってできるようになったことを書かせる。アンケート調査で、学習したことを書くことが嫌いという回答している児童もいるため、その児童が書ける程度の文章量のシートや質問カードとリンクしたシートで作成できるように用紙を2パターン準備する。そうすることで、書くことへの苦手意識を少しでも減らしていきたい。一人で作成することが難しい児童には、グループの友達と相談したり、教師が作成した「自分はっけんブック」をいつでも手の届く場所に準備し、参考にしたりしながら取り組ませる。「自分はっけんブック」を作成していく中で、自分の成長に気付き、周りの人への感謝の気持ちが生まれるようにしていきたい。

第9時では、「自分はっけんブック」を作成して感じたことをワークシートに記入したり、友達と見合ったりする。この活動を通して、自分の成長に気付くだけでなく、友達の成長にも気付かせる。そうすることで、「自分のことを大切に育ててくれた人がいる」ように、「友達にも大切に育ててくれている人がいる」ことを気付かせ、思

いやりをもって関わるができるようにしていきたい。

④研究仮説との関わり

研究仮説 1

楽しく、興味をもてる活動を設定すれば、児童は学習を好きになるであろう。

教師の子どものころの写真を見て答える「私は誰でしょう？」クイズに取り組ませたり、教師の「自分はっけんブック」を見せたりすることで学習に興味をもたせていく。学習のゴールを明確にすることで、一人一人が目的意識をもって活動することができる。また、友達と相談したり、オリジナルの「自分はっけんブック」を作ったりする活動を行うことで、意欲的に学習に取り組むことに繋がるだろう。

研究仮説 2

多様な経験や豊富な材料や人材を整えることで児童の気付きに繋がるだろう。

「自分はっけんブック」を作成する際に、情報を集めるためのインタビューが重要になる。直前の学習では、町探検をする際に、グループの友達と相談したり質問内容を考えたり、丁寧な質問の仕方を練習したりしてきた。今回の学習でも、グループの友達と写真を見合い話し合う中で、様々な気付きが生まれると考える。

(3) 単元の見どころ

友達や先生からもらったカードをきっかけに、小さかったころの自分に興味をもち、様々な方法で自分のこれまでの生活や成長を調べ、分かったことを自分がまとめたい方法でまとめることができる。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分自身の成長を振り返ることから、大きくなったこと、自分のできるようになったことや役割が増えたことが分かっている。 【記録・作品】 - 自分の成長を支えてくれた人々の存在に気付いている。 【記録・発言】 - これまでの自分の生活や成長は、たくさんの人に支えられてきたことに気付いている。 【発言・作品】	- 自分が小さかったころのことを調べる方法を考えている。 【行動・発言】 - 様々な手がかりをもとにして、過去の自分と今の自分を比べている。 【行動・発言】 - 自分なりの方法を考え、「自分はっけんブック」に表現している。 【作品】	- 友達との意見交流を通して、小さかったころの自分に興味をもち、自分について知ろうとしている。 【発言・記録】 - 自分の成長を振り返るための手がかりを粘り強く、見つけたり集めたりしようとしている。 【行動・つぶやき】 - 自分の成長を振り返り、まとめようとしている。 【行動・作品】

(5) 指導と評価の計画 9時間扱い 本時(1/9)

時	学習内容と学習活動	◎評価規準(観点)【方法】
1 本 時	◆小さいころの写真を見て、はてなをたくさん出す。 ○「私は誰でしょう？」クイズに取り組む。 ○学習の見通しをもつ。 ○自分の写真を見て、はてなを見つける。 ○グループで写真を見合い、はてなを見つける。	友達との意見交流を通して、小さかったころの自分に興味をもち、自分について知ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・記録】
2 3	◆インタビュー相手の選定や内容を精選する。 ○グループで話し合い、様々な意見を基に、9枚の写真についてのインタビューシートにインタビューする相手や内容についてまとめる。 ○インタビューの練習を行う。	- 自分が小さかったころのことを調べる方法を考えている。 (思考・判断・表現) 【行動・発言】 - 自分の成長を振り返るための手がかりを粘り強く、見つけたり集めたりしようとしている。

		(主体的に学習に取り組む態度) 【行動・つぶやき】 ・友達との意見交流を通して、小さかったころの自分に興味をもち、自分について知ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・記録】
4	◆ 1～2枚目の「自分ほっけんブック」を作成する。 ○どのような「自分ほっけんブック」にするのか考える。 ○1～2枚目のインタビューしたことを基に「自分ほっけんブック」を作成する。	・自分なりの方法を考え、「自分ほっけんブック」に表現している。 (思考・判断・表現) 【作品・記録】
5	◆ 3～4枚目の「自分ほっけんブック」を作成する。 ○どのような「自分ほっけんブック」にするのか考える。 ○3～4枚目のインタビューしたことを基に「自分ほっけんブック」を作成する。	・自分自身の成長を振り返ることから、大きくなったこと、自分でできるようになったことや役割が増えたことが分かっている。 (知識・技能)【記録・作品】
6	◆ 5～6枚目の「自分ほっけんブック」を作成する。 ○どのような「自分ほっけんブック」にするのか考える。 ○5～6枚目のインタビューしたことを基に「自分ほっけんブック」を作成する。	・自分の成長を支えてくれた人々の存在に気付いている。 (知識・技能)【記録・発言】
7	◆ 7～8枚目の「自分ほっけんブック」を作成する。 ○どのような「自分ほっけんブック」にするのか考える。 ○7～8枚目のインタビューしたことを基に「自分ほっけんブック」を作成する。	・自分の成長を振り返り、まとめようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動・作品】
8	◆ 9枚目の「自分ほっけんブック」を作成する。 ○どのような「自分ほっけんブック」にするのか考える。 ○9枚目のインタビューしたことを基に「自分ほっけんブック」を作成する。	
9	◆ 「自分ほっけんブック」を作成して感じたことをワークシートに記入する。 ○自分の成長やこれまで支えられてきたことについて記入する。	・自分の成長を振り返り、まとめようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動・作品】 ・これまでの自分の生活や成長は、たくさんの人に支えられてきたことに気付いている。 (知識・技能)【発言・作品】

(6) 本時の指導 (1/9)

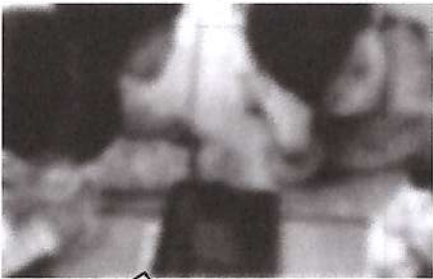
①目標

自分の小さいころを知るために意欲的に話し合いに参加し、自分について知ろうとしている。

②展開

過程 (時配)	学習内容と学習活動	指導・支援 ◎評価規準(観点)【方法】	資料
見いだす (15)	○教師の子どものころの写真を見て「私は誰でしょう？」クイズを行う。 ・校長先生 ・教頭先生 ・担任(4名)	○写真を見て、誰の子どものころなのか考えさせる。 ・クイズを行いながら、その写真の注目するポイントについて教師が話すことで、児童に見る視点(はてな)を与える。 ・手本となる、くま手チャートを書く。	タブレット 教師の写真 くま手チャート

	・大人になった教師もこれまで多くの人と関わってきたことに気付かせる。 【仮説1】  ○学習の見通しをもつ。 ○本時のめあてをつかむ。 写真を見て、「はてな」をたくさん出そう。	・これはなにをしているんだろう。 ・何歳ぐらいの写真かな。 ・持っている物は何だろう。 ・自分の小さいころはどんな様子だろう。 教師が作成した「私は誰でしょう？」クイズを行うことで、自分の小さいころに興味をもち、学習に前向きな気持ちになった。 ○本時のめあてを理解させる。	自分発見ブック
自分で取り組む (8)	○事前にタブレットで撮影した小さいころの写真を見て、「はてな」をくま手チャートに記入する。 ・隣にいる人は誰なのか？ ・当時何が好きだったのか？ ・なぜ、こんなに泣いているの？ ・どんなことができるようになったか？ ・そのときどんな気持ちだったのか？	○写真を見てくま手チャートに見つけた「はてな」を記入させる。 ○写真を見る視点は「私は誰でしょう？」クイズでくま手チャートに整理したことを参考にさせる。	タブレット 自分の小さいころの写真 くま手チャート
広げ深める (20)	○グループの友達と写真を見合い、考えを深める。 ・くま手チャートに友達の意見を加える。	○友達の写真を見て「はてな」を出して、付箋に書かせる。 ・入力に時間がかかってしまう児童は、付箋に書かせ写真を撮り、くま手チャートに貼り付けさせる。 ○話し合いの際は、一人5分で必ず次の児童の写真の話し合いを行うように声をかける。 ○写真を見る視点は「私は誰でしょう？」	タブレット 自分の小さいころの写真 付箋

	【仮説2】  C1 これは何歳なのかな。 C2 どうしてこんな顔をしているんだろう。 C3 この時、お家の人はどんな気持ちだったのかな。 話し合いの中で、自分では気付くことができなかった点を疑問にもち、考えを広げ、くま手チャートにまとめる姿が見られた。	クイズでくま手チャートに整理したことを参考にさせる。 ◎友達との意見交流を通して、小さかったころの自分に興味をもち、自分について知ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【発言・記録】	
まとめ あげる (2)	○次時の学習へ見通しをもたせる。	○誰にどのようなインタビュー内容にするのか改めて考え、インタビューシートを作成することを伝える。	

(7) 板書計画

⑧

写真を見て、「はてな」をたくさん出そう。



いっしょにうつっている人はだれですか？

どこでとったしゃしんですか？

まわりの人はどんなことを思っていましたか？

この後、どこに行きましたか？

話し合いのルール

- ・一人5分
- ・友達の写真を見て、「はてな」をふせんに書いて渡す。
- ・友達の写真について話し合いをする時は、自分のタブレットを閉じる。

(8) 生活科のアンケートによる児童の変容

質問	回答 (令和6年9月)	回答 (令和7年2月)
1 生活科の学習は好きですか。	好き 25人 少し好き 4人 少し嫌い 0人 嫌い 2人	好き 20人 少し好き 11人 少し嫌い 0人 嫌い 0人
2 それはなぜですか。	1 もの作りが楽しいから 15人 2 植物を育てたり, 観察したりするのが好きだから 5人 3 グループ学習が楽しいから 4人 4 インタビューすることができるから 4人 5 町探検が好きだから 1人 6 学習したことを書くことが嫌いだから 2人	1 作ったり考えたりすることが好きだから 13人 2 色々な学習に取り組むことができるから 7人 3 町探検が好きだから 3人 4 自分のことを調べることができるから 3人 5 好きな学習と好きではない学習があるから 2人 6 植物を育てたり, 観察したりするのが好きだから 2人 7 生活科の学習全般が好きだから 1人
3 生活科の学習で何かを調べたいとき, 何を使いたいですか。	教科書 4人 本 5人 タブレット 19人 人に聞く 3人	教科書 6人 本 1人 タブレット 19人 人に聞く 5人
4 自分が生まれたときの話を家の人から聞いたことがありますか。	はい 23人 いいえ 8人	はい 31人 いいえ 0人
5 自分が小さいころの話を聞いたことがありますか。	はい 25人 いいえ 6人	はい 31人 いいえ 0人
6 赤ちゃんのころの写真を見たことがありますか。	はい 27人 いいえ 4人	はい 31人 いいえ 0人
7 自分の名前の意味を知っていますか。	はい 20人 いいえ 11人	はい 23人 いいえ 8人
8 小さいころの記憶がいつからありますか。	1 生まれたとき 4人 2 保育園や幼稚園に入る前 (1～3才まで) 10人 3 保育園や幼稚園に入ってから (4～6才) 17人	1 生まれたとき 2人 2 保育園や幼稚園に入る前 (1～3才まで) 12人 3 保育園や幼稚園に入ってから (4～6才) 17人

成果 (○) と課題 (▲)

○自分の小さいころの話や赤ちゃんのころの話, 自分の名前の意味については, 若干ではあるが人数が増えた。教師が手本で作成した「自分のはっけんブック」を見たことで, 自分の過去への興味を高めることができたのだと考える。

▲生活科の学習を「嫌い」という児童はいなくなったが, 「好き」という児童は減ってしまった。「自分のはっけん

ブック」を作成する際、書くことを苦手としている児童のためにまとめ方を工夫する必要があった。

▲生活科の学習で何かを調べたいときの使う道具については、ほとんど変化がなかった。日頃、様々な教科でタブレットを使用していることがこのような結果になったと考える。

(9) 成果と課題

研究仮説 1

楽しく、興味をもてる活動を設定すれば、児童は学習を好きになるであろう。

成果 (○) と課題 (▲)

○「私は誰でしょう？」クイズを行うことで、興味をもてる活動となった。

○教師が作成した「自分発見ブック」を見ることで、インタビューをしたいと学習に前向きな気持ちになった。

○自分の写真や友達の写真を見て話し合うことで、探究心をかき立て、意欲的に活動する姿が見られた。

▲準備した写真が多すぎて、選ぶのに時間をとってしまった。

研究仮説 2

多様な経験や豊富な材料や人材を整えることで児童の気付きに繋がるだろう。

成果 (○) と課題 (▲)

○5名の教師が作成した「自分ほっけんブック」を手本で見せたことで、作成する際のイメージをもつことができた。

○保護者に協力していただいて、事前に10枚程度写真を用意した。気付きに繋がるような特徴的な写真を持たせていただいたことで、様々な疑問をもつことができた。

○くま手チャートを使うことで、インタビュー内容をわかりやすく整理することができた。

○様々な様式のワークシートを作成したことで、書くことを苦手としている児童も無理のない範囲でまとめることができた。

▲同じような写真を持ってきていた児童も見られた。

▲話し合いの時間を守れず、時間をオーバーした班があった。余裕をもって、計画すべきだった。